

施工説明書（木材製品の特性及び、お取り扱い上のご注意）

雨濡れ・水濡れ

長時間の雨濡れ、水濡れは製品のシミやカビの発生、腐れ、変色、反り、突き上げなどのさまざまな不具合の原因になりますので、濡らさない様にして下さい。万が一濡れてしまった場合は直ちに乾いた布で拭き取り、通気を良くして、日陰で乾燥させてください。
無塗装製品の場合にはあらかじめ浸透性保護塗料などで表面を保護することをおすすめします。ご使用前の保管については、直射日光、雨水、湿気を避けて保管して下さい。

色違い・やけ

自然木のため1枚1枚色や木目柄は異なります。また、太陽光(紫外線)により人間と同じく日焼けをし、変色していきます。
そのため光の当たった部分とそうでない部分で色が異なる状態になることがあります。

危険作業の禁止

高所作業は必ず施工業者にご依頼下さい、落下事故やけがの原因となります。
再塗装や補修工事など危険が伴う作業も、専門の安全対策を行った施工業者様にご依頼ください。

焼杉、及び杉羽目板外装用の経年変化について

外壁の景観は風化し経年変化します。変化の度合いは、直射日光(紫外線)、雨水(酸性雨など)、寒暖環境、風などの地域的環境条件や立地条件によって大きく変わります。したがって一言で「色調の変化は何年」と言う事は出来ませんが、定期的に適切なメンテナンス(再塗装)を行っていただきますと、自然環境による風化を遅らせ、商品の風合いを保つ事が出来ます。

- ・無塗装品には塗装をしてご使用されることをおすすめします。塗装は木材製品専用で板の呼吸を妨げない浸透性保護塗料をお勧めします。焼杉の無塗装品につきましてもしばらく時間が経過しますと炭が風雨にさらされて色合いが落ちてまいります。その場合は焼杉の特性上直ちに腐食等は考えにくいですが、そのまま塗装をされない場合は紫外線や風雨に対する木材への保護能力が無いため、変色、劣化、風化が進んでいきますので、無塗装品同様塗装メンテナンスを行って下さい。
- ・塗装の際にご使用される塗料は紫外線による変色、変化から考慮すると、顔料の多い着色塗料をお勧めします。
- ・使用する塗料メーカーの施工要領に従って確実に行ってください。
- ・塗装品や、施工前にご自身で塗装された商品、再塗装された塗膜も経年変化により定期的に塗り替えの必要が出てきます。その際には定期的に適切なメンテナンス(再塗装)を行っていただきますと、自然環境による風化を遅らせ、商品の風合いを保つ事が出来ます。
- ・塗装は施工前に、表裏両面、実部分、木口面にも行って頂くことがベストです。板が収縮して実合わせ部分に隙間が生じた場合でも、無塗装部分の露出を防ぐ事が出来ます。
- ・同じ現場内で湿式工事(土壁など)がある場合、十分に養生期間を取り、現場内の湿度が安定してから外壁の施工をしてください。板の反りや、伸びによる突き上げを軽減する事が出来ます。
- ・立地環境に応じ、適切な間隔を考慮しながら施工してください。

お取り扱いご注意

お取り扱いの際は、トゲによる怪我の防止、商品の汚れ防止の為に必ず防護目的の手袋をご使用下さい。

商品を切断、切削する際は怪我に十分注意し、保護メガネ、防塵マスクをご装着下さい。

木製品は、柔らかく破損しやすいので保管、移動梱包の際は慎重なお取り扱いをお願いします。

天然木製品のため木目や色合いは全て異なります。施工前には必ず仮並べをして色合いをご確認の後施工して下さい。

立地環境に応じて、間隔を考慮しながら施工して下さい。

外装にご使用の場合、下地には防水シートを必ずご使用下さい。

外装にご使用の場合、水切りを必ずご使用下さい。使用されない場合、基礎などに木材のアクや、炭が付着して汚す恐れがございます。

胴縁は 300^{mm}程度のピッチにして下さい。

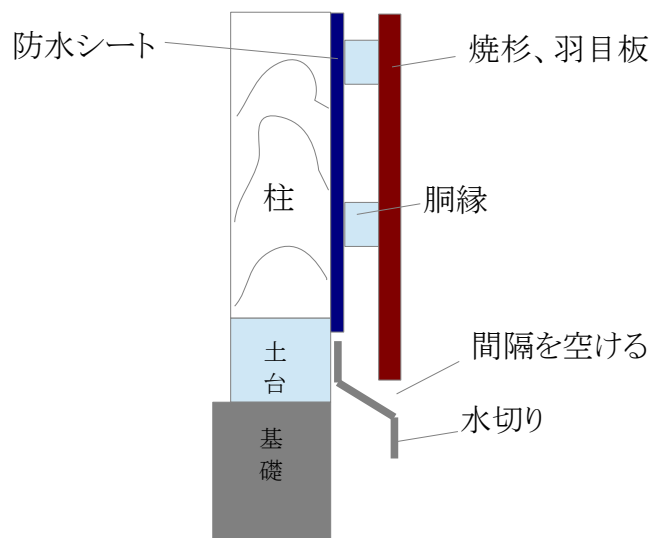
フィニッシュはご使用にならないで下さい。

釘は板の厚みの3倍以上の平らな頭のスクルー釘、焼杉用の釘等をご使用下さい。

釘は脳天打ちにて施工して下さい。

無垢の商品ですので、現場の湿度により伸縮が起こります。伸縮率は板毎に、部分ごとに異なって参りますので、施工時には必ず墨出しをして、上下のバランスをご確認いただきながら施工して下さい。

看板、エアコン等を施工後に取り付ける場合は、下地に補強材などを入れ、十分に強度のある箇所に取り付けて下さい。板へ直接固定されますと、強度不足が生じます。



焼杉施工イメージ

免責事項

- ・当社の施工説明書に記載された事項に反した施工、取り扱いが原因となって不具合が生じた場合。
- ・当社製品以外の部材の不具合により発生した事故。
- ・施工者、入居者(管理人を含む)および第三者による維持管理不足、ならびに故意、過失により不具合が生じた場合。
- ・工事完了後の増改築や補修、あるいは設備機器などの取り付け工事で生じた不具合。
- ・建物の構造上に起因する変形、変位によって生じた不具合。
- ・初期の損傷、あるいは不具合を長期間放置したために拡大した損傷。
- ・塗装工事に伴う不具合。
- ・台風、地震、水害、火事、爆発、地盤変動、土砂崩れなどの災害によって生じた不具合。
- ・製品の経年変化による汚れ、変色、割れ、欠けなど。
- ・薬品、動物、植物、等外的要因による汚れ、変色、割れ、欠けなど。
- ・水濡れ、結露、下地材の腐朽等によって生じた不具合。
- ・釘部のサビによる、商品への汚染破損等の不具合。
- ・木材のアク、炭等に起因する基礎部分、犬走りなどへの汚染の不具合。
- ・経年変化または生活使用上から起こりうるひび割れ、ささくれなどによる事故等。